

まちかど 特派員のページ



こうかまちかど
特派員
なかしま はるか
中島 悠



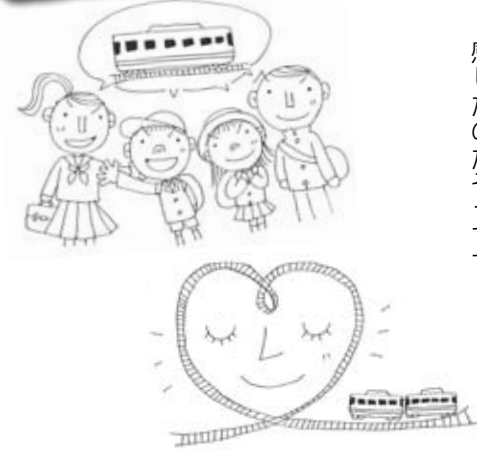
▲信楽高原鉄道グッズ

カタタニロフトン 夢をのせて 信楽高原鉄道への想い

現在、運行再開への取り組みが進められている信楽高原鉄道。そんな高原鉄道への想いを発信しておられる引田啓子さんにお話を伺いました。

●まちから鉄道がなくなる、とワウワウ

自身のお子さんも、高原鐵道を利用して通学されている引田さん。『信楽の特異な道路状況などを考えると冬期は危険で、バスでは不便。鉄道がなくなると、通学する子どもたちや親が困るし、車を持たない人は住めない。信楽高校への進学者も減るのでは。まちから子どもがいなくなり、活気がなくなってしまう。』まだ運行再開の見通しが立たなかった頃、そんな不安を感じたのだそうです。



●様々な想いを共有したい

「まちの人達のためにお願いします。」そう言って募金活動を行う信楽高校生たちの姿を見て、心を動かされたという引田さん。『高原鉄道への想いを多くの方からお伺いしたい。』



▲信楽駅ホームはタヌキがいっぱい



▲引田 啓子さん

んな気持ちで、自分の想いや意見をインターネットのソーシャルネットワークサービスで発信することにしました。

引田さんの発信は市内外を問わず、たった数日間約2千人の方々が見ました。これをきっかけに『鉄道のあるまち・信楽』を、それぞれが当事者意識を持ってもう一度考え直して頂ければ、と引田さん。中には『鉄道は必要ない』といった厳しい意見もありますが、それもひとつの答えとして受け止めているそうです。



平成26年3月1日

「多彩な料理にチャレンジ」

●小原地域市民センター

2月9日、小原自治振興会では、杵原会館において「男の料理教室」が開催されました。

メニューはさば寿司・いなり寿司・スパゲッティカルボナーラとナポリタン、そしてれんこんチップと盛り沢山でした。

当日は女性の方からの特別な後方支援を頂きながら、皆さん悪戦苦闘の連続。

一見組み合わせに違和感もありましたが、和洋折衷料理となり、試食会ではその出来栄に大変満足されていました。参加者の一人は「すぐ家でやってみよう」と、とても満足気でした。



▲男の料理教室

30年後はこんな地域に

●鮎河地域市民センター



▲グループで楽しい話し合い

羽ばたけ鮎河自治振興会がこのほど、「こんな鮎河になったらいいなあ」と題し、自分たちの住んでいる地域(鮎河学区)の将来についての話し合いが、若者と若いお母さんが集まって行われました。

話し合いは、30年後の地域に「残っていて欲しいもの」「できたらいいなあ」と思うこと「変わって欲しいこと」の3つに絞って行われ、最終的に、出された意見を「こんな鮎河になったらいいなあ川柳」にまとめて発表がされました。グループ分けゲームが始まり、愉快な川柳で終わると楽しい話し合いとなりましたが、どの人もふるさと「鮎河」を愛しておられ、熱く語っておられました。

希望ヶ丘学区で食育講演会を開催

●希望ヶ丘地域市民センター



▲竹下先生講演会の様子

1月31日、希望ヶ丘防災コミュニティセンターにおいて、「弁当の日」の提唱者である竹下和男さんを講師に迎え、食育講演会が開催されました。

この講演会は、企画・運営を希望ヶ丘学区自治振興会希望ヶ丘分会、本町分会、地域内の子どもに関係する団体が連携し、昼の部と夜の部の2回行われました。

講演では、子どもが弁当作りのすべてを一人で行うことで身につく力や子育てにおいて果たすべき大人の役割などをわかりやすく、時には涙あり、時には厳しく話されました。約230名の参加者は、時の経つのも忘れて聞き入り、2時間の講演はあっという間に過ぎていきました。

地域市民センター 東西 東北

透きとおる歌声が心にしみて…感動!

●貴生川地域市民センター

貴生川地区人権教育推進協議会では2月15日、貴生川公民館を会場に、『第4講 まちづくりセミナー』が開催されました。

今回はKLGコンサートとして、三重県にあるひまわりデイセンター「ぶっくりあ」から、小池千鶴子&リトルギャルズのお二人にお越しいただきました。コンサートでは、♪赤い花白ひ花・この道・カントリーロード♪など懐かしい歌や、♪友だちはいいもんだ♪の歌を手話を交えて会場の皆さんと一緒に歌ったりしながら、

自身の障がいのことや日々の充実した生活の様子などをお話してくださりました。

当日は大雪の後でしたが無事開催することができ、参加された皆さんは小池さんの美しい透きとおった歌声にうっとり聞き入っておられました。



▲美しい歌声でつまれる会場